

がん診療におけるPDCAサイクルの実施状況について(2022年度)

分野	番号	課題名	目標設定	Plan	Do	Check	Act
教育研修	1	web研修会を開催する。	web研修の数	Web研修及びハイブリッド型研修の促進。	・感染対策を考慮した上で直接参加の制限を緩和しつつあるが、対象者が多い研修会については同時にLIVE配信にて実施。 ・事前に収録した研修動画の配信及びオンラインフォームにて確認テスト等実施。	・院内外における研修においてハイブリッド形式での開催を実施。 ・開催後のオンラインフォームにて出席率や認知度の確認を図った。	これまで集合型で実施していた研修についてもWeb研修に対応できるか検討し、Web研修の普及を図る。
	2	教育研修の充実のために、県内web研修に参加する。	県内web研修に参加する。	がん関連県内web研修に積極的に参加。	がんに関連する職種に委員会及び事務局から開催案内を周知。	・相談支援専門部会相談員研修会 ・教育研修専門部会がん看護研修部会主催がん看護研修会 ・小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会 等 各種研修会に参加。	引き続きがんに関連する職種に委員会及び事務局から開催案内を周知。
	3	緩和診療委員会主催の院内勉強会を実施。症状コントロールについての勉強会を6回実施。	緩和ケアに関する勉強会を行い、病院職員全体の緩和ケアの知識の向上、緩和ケア提供体制の向上をはかる。	・勉強会の告知について ・一覧表を作成し配布 ・一覧表を院内掲示する ・勉強会開催前(1～2週間を目途)に再度告知 ・院内で情報共有できるツール(TRIO、看護部情報共有フォルダ)を活用し勉強会を告知 ・勉強会の実施 ・2022年7月より年6回予定 ・講師は医師、看護師、薬剤師などPCTメンバーで持ち回り ・テーマ:6月の委員会で決定予定 ・開催時の感染状況に応じてweb開催も考慮 ・勉強会終了後 ・アンケートを作成し、次年度に生かす	・左記計画の実施 6月の委員会で、テーマはその都度現場のニーズに合わせて決めることとなった 6月10日時点で ・一覧表を作成し配布 ・一覧表を院内掲示 ・院内の情報共有ツールを利用し勉強会の告知を実施 ・勉強会は7月より実施予定	・左記計画を実施 ・アンケート結果では ・テーマはあらかじめ決まっていた方がスタッフにとっては参加しやすいようであった ・8月9月は院内クラスター発生にてweb開催も検討したが、クラスター対応のスタッフの疲弊を考え行わず、10月～再開 ・12月以降もCOVIDの発生状況に応じてweb開催など検討していく。	・勉強会のテーマは年間予定をたてる。 ・年間予定以外に必要に応じ随時勉強会を実施を次年度検討 ・勉強会の内容を動画に残し、いつでも閲覧できる環境の構築を検討
院内がん登録	1	登録内容の精度向上と登録実務者の知識の平均化	・標準登録様式、部位別テキスト等の資料に基づいた正確な登録ができるようにする。 ・実務者の知識向上と平均化を図る。	・登録内容のダブルチェックにて、実務者間で認識の違いが生じた場合、標準登録様式、部位別テキスト等の資料を確認し、互いの認識を一致させるようにする。 ・Hos-CanR Nextでのエラーチェックのエラー内容を実務者間で共有し、来年度の全国集計時にはエラー件数が少なくなるよう務める。 ・国立がん研究センター、千葉県がんセンター主催の研修会への参加。	・実務者間で、互いに登録内容のダブルチェックを行い、間違い、認識の不一致な項目について互いに理解するまで話し合い、登録業務を行った。 ・登録業務において不明な点、迷ってしまう症例については院内がん登録SNS、国立がん研究センターのHP等で調べ、知り得た情報は実務者間で共有するようにした。 ・Hos-CanR Nextでのエラーチェック。 ・国立がん研究センター、千葉県がんセンター主催の研修会への参加。	・登録実務における、不明な点、迷ってしまう症例については、些細なことでも実務者間で話し合いながら登録業務を行った。 また、研修会へ参加し自己学習を行った。結果として、知識向上と平均化を図ることができたと思われる。 ・Hos-CanR Nextでのエラー件数は昨年度は8件、今年度は7件であり、登録内容の精度については維持できていると思われる。	・不明、曖昧な点について、院内がん登録SNSでの過去の質問検索、国立がん研究センターHP等で調べたが、分からないことがいくつかあるので、SNSへの新規質問投稿等を活用し明らかにしていかなければならない。 ・今後も同じ目標を掲げて登録実務を行っていく予定だが、来年度は下記の点について、重点的に取り組んでいきたい。 ①新たなルール変更への対応 ②多重がんルールの習得 ③実務者各々が不得意とする症例(部位)のスキルアップ。
相談支援	1	【相談員教育】 相談員基礎研修の未受講者がいる現状がある	1.相談支援の質向上のため、相談員基礎研修や県相談員研修会を受講する実務者が増える 2.拠点病院において、認定がん専門相談員を持つ相談員がいる	がん相談員基礎研修の受講を推奨	基礎研修Ⅰ・Ⅱは1名受講、Ⅲは2名受講した。また、小児がん相談員専門研修を1名受講した。	他の研修とのかねあいで基礎研修Ⅰ・Ⅱの受講者が少なかった。	引き続き、研修受講を推奨し受講者を増やしていきたい。
	2	【がん相談の周知】 周知活動における施設差により、周知が進んでいない可能性がある。	①地域に向けたがん関連イベントへ積極的に参加する。 ②各病院の職員ががん相談支援センターを理解するための活動を年1回は開催する。	職員向けの研修を企画する。	職員向けの研修開催は未実施である。	研修開催はできなかった。	職員向けの研修企画を引き続き検討する。がん相談周知、相談件数増加に向けて他の周知方法も検討していきたい。
	3	がん相談の質の向上	・がん相談支援センターの周知 ・がん相談の統計項目を増やす	①当院で作成したがん相談支援センターのリーフレットの配布 ②がん相談支援センター内の環境整備 ③がん相談の統計方法の見直し	①がん診断時に外来でリーフレットを配布できるよう院内で検討し、配布することが決定した。 ②がん関連のパンフレットを充実させ、センター前に看板を設置した。 ③AYA世代の件数を把握できるようにした。また相談内容を細かく分類し件数把握できるようにして、統計方法を変更した。	①リーフレット配布はこれからなので、その反応を確認していきたい。 ②必要な資料が近くにあることで、面談がスムーズに行われるようになった。 ③相談員に統計方法を周知し、10月から統計を開始している。来年度以降、件数を把握し評価していきたい。	①～③ともに継続していきたい。
緩和ケア	1	【緩和ケア研修会(研修の実施体制)】 がん診療連携拠点病院等において、基本的な緩和ケアを实践できる人材の育成	「がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」受講率を上げる。 ①1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師:90%以上の受講 ②自施設に所属する臨床研修医(2年):100%の受講	1.研修対象者かつ未受講者を把握 2.対象者に直接、研修参加を促す連絡をする。(e-learningを含め) 3.対象者の上司に部下の研修参加状況を伝え、上司からの働きかけを依頼する。 4.看護師、薬剤師など医師以外の職種にも参加を呼びかける	・在籍する修了者、未受講者及び対象者のリストを作成し、直接周知または所属長からの働きかけを実施。 ・緩和ケアを担う看護師より各病棟へ周知。	・臨床研修医から多くの受講希望があり、また、直接緩和ケアに携わらない医師、看護師に関しても受講希望があった。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が続いていることから、2022年度も院内職員に限定して開催となる。	・今年度受講希望がなかった職員への周知徹底。 ・在籍職員への修了報告の実施。 ・感染症対策を続けるのと、感染が収束している時期の院外からの募集を再開。
	2	県内施設における、緩和ケアチーム活動の質向上	チーム活動の質を向上する	1.日本緩和医療学会主催の緩和ケアチームセルフチェックプログラムに参加。 2.緩和ケアチームへの依頼体制の整備、見直し。 3.運用の周知徹底。	1.管理職交代で、実施せず。 2.新体制で、新たに施行。書面だけでなく、依頼時に直接協議を施行。 3.院内周知を複数回施行。	新体制と旧体制の混乱が見られた。	今後も、新体制を周知していく。
地域連携	1	病病・病診連携の更なる強化	紹介患者獲得の基盤となる、病病・病診連携の更なる強化を図る。	・医療機関への積極的な訪問活動 ・連携病院との学術講演や意見交換 ・情報発信	・医療機関の積極的訪問 ・FAX診療申込の推進 ・ホームページ、SNS等を活用した情報発信	・連携病院との学術講演や意見交換はWEB会議ツールを用いて実施。 ・市民・団体・企業向けに出前講座を実施。	継続及び制限緩和時の活動拡大
小児がん	1	小児・AYAがん患者の経験は十分といえず、多職種介入の更なる深い検討を必要とする。	院内カンファレンスを継続し講演会等への参加も促す。	講演会の案内周知、カンファレンスの継続。	血液内科小児科合同カンファレンスは月1回継続できている。SWを中心としたサポートチームは必要な介入を十分に行うことができた。	コロナ下であり活動を広げられていないのが現状であろう。講演会への参加も少なかった。	講演会への参加を促し、さらに経験を積む必要があるだろう。